

「祈りの家」

1. はじめに

・ルカが記すイエスがエルサレムに入られた最初の記事。

・「祈りの家」と「強盗の巣」

\*エルサレムはどんな意味であったのか。詩篇 122 : 1 ~ 4 『「さあ 主の家に行こう。」人々が私にそう言ったとき 私は喜んだ。エルサレムよ 私たちの足は あなたの門の内に立っている。エルサレム それは 一つによくまとまった都として建てられている。そこには多くの部族 主の部族が上ってくる。』

\*信仰の象徴だった。

・イエスは毎日、宮で教えておられた。(47 ~ 48節)

・主だった人々イエスを「殺そうと狙っていた。」

・人々は熱心に耳を傾けていた。

2. 本文

a. 45 ~ 46節

・45節：それからイエスは宮に入って、商売人たちを追い出し始め、

・①商売人たちを追い出した。②祈りの家③強盗の巣

・イザヤ 56 : 7、エレミヤ 7 : 11

b. 47 ~ 48節

・47節：イエスは毎日、宮で教えておられた。

\*教会と仕組み(組織)の関係。

\*み旨を達成するために教会組織を考えなければならない。その逆ではない。

・人は自分の限界をどのようにイメージするのだろうか。限界と祈りとは(人の限界から祈りがはじまる。信じる者の可能性、特権、自由など)

・宮で商売をするには必然がある。十分の一税、雀一羽の値段、ディアスポラのユダヤ人のため。

\*ヨハネ 4 : 21、「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時がきます。」

・祈り：意味、事例、パリサイ人・律法学者の祈り、マリヤの祈り、xxxの祈りなど。

・マタイ 21 : 12 ~ 17、マルコ 11 : 15 ~ 19、ヨハネ 2 : 13 ~ 22。

3. まとめ

・信仰者としての生き方の再度の確認。

・イエスの涙

・イエスの怒り